

第27回中央区東・南薬剤師会「病薬連携セミナー」
於：大阪国際がんセンター 大講堂

2018.2.25

薬-薬連携の充実に向けて

(乳がんレジメンの紹介と在宅医療の説明)

大阪国際がんセンター
薬局 角川 幸男

【本日本話しする内容】

- A. 当センターでの代表的な乳がんレジメンの紹介
- B. 在宅医療への薬剤師介入の可能性



A. 当センターでの代表的な乳がんレジメンの紹介

《各レジメン毎の説明内容》

◆投与スケジュール

◆チェック項目

◆副作用

◆その他

- ・内服薬の指導(FECのみ)
- ・各レジメンの中で特に強調したい副作用対策



1) 乳腺FEC療法

術前化学療法、
術後補助化学療法、
進行再発癌治療

	外観	投与時間	薬剤名称	目的
1		点滴開始 60分前に内服	イメンドカプセル125mg	吐き気止め内服薬 (早発性・遅発性の悪心嘔吐予防目的)
2		数分	生理食塩液	ルート確保 (注射針が血管の中に入っているか確認する目的)
3		10分程度	アロキシ点滴バッグ +デキサート注	吐き気止め注射薬 (早発性・遅発性の悪心嘔吐予防目的)
4		10分程度	生理食塩液 +エピルピシン注	1つ目の抗がん剤 (オレンジ色)
5		10分程度	生理食塩液 +5-FU注	2つ目の抗がん剤 (透明)
6		10分程度	生理食塩液 +エンドキサン注	3つ目の抗がん剤 (透明)
7		数分	生理食塩液	ルート洗浄

24時間以降に
ジースタ皮下
注の併用も

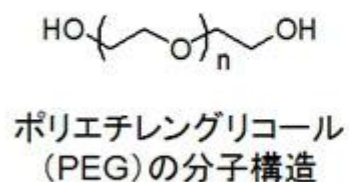
次頁

おしっこが赤くなる
が心配しない

3週間毎。術前・術
後補助化学療法の
場合は4回投与。

《ジーラスタとは》

○ ペグフィルグラスチムの構造



FN(発熱性好中球減少症)のリスクを低減させる持続型G-CSF製剤。
抗がん薬投与終了の24時間以降に1回の皮下注射で
グランを1週間程度連日投与したのと同等の効果があるとされる。
薬価: 106,660円

副作用

全身の疼痛(背部痛、関節痛、筋肉痛、骨痛) 25%程度

⇨ 対策: 非麻薬性鎮痛薬

(アセトアミノフェンやNSAIDs)



《FEC療法でのチェック項目》

■エピルビシンの生涯総投与量のチェック(900mg/m²未満)
...うっ血性心不全になると予後不良のため

■採血データ(目安)

白血球数: 2500/mm³以上

好中球数: 1500/mm³以上

血小板数: 7.5万/mm³以上

Hb値: 7.0g/dL以上

T-Bil: 2.5g/dL未満

AST: 100U/L未満

ALT: 100U/L未満

CG式-CCR: 30mL/min以上

FECは確立した採血データはない

《乳腺FEC療法で特に指導する副作用》

- 骨髄抑制(特に好中球減少)

➔白血球数、好中球数、Hb値、血小板数の確認

調剤薬局の先生方にも
数値にご注意ください

- 悪心嘔吐

頓用薬について飲み方をしっかり指導

- 味覚障害、嗅覚障害、食欲不振

食欲がないときには、「少量を回数多く」、栄養価の
ことは考えずに「食べられるものを食べる」

- 口内炎

口腔ケア指導(ハチアズレで1日5回うがい、やさしく1日3回歯磨き)

- 便秘

マグミットを本日夕方から服用

- 脱毛

頭部は必ず脱毛する。まつ毛が抜けた場合は結膜炎への注意、
まゆ毛が抜けた場合はアピランスケア

- 血管外漏出(後述)

- 皮膚着色

日焼け対策を指導

- ジーラスタによる体の痛み

鎮痛薬を積極的に使用

水分摂取を励行します



《FECでの内服薬指導要領》

必ず飲まなければいけない内服薬と頓用の内服薬をはっきりと説明します。FECは外来指導することが多いので内服薬もしっかり説明します。

2. 飲み薬について


副作用をコントロールするための飲み薬が処方されています。院外処方せんが出ていますので、お薬は、院外薬局でもらってください。なお、場合によっては、同じ成分で製薬メーカーが違う薬になります。

★化学療法剤（注射薬）による吐き気・嘔吐（おうと）対策★

商品名	のみかた	効能
 デカドロン錠 4mg	1日1回 朝食後 1回2錠 3日間 ※治療翌日からお飲み下さい	ステロイド剤です。むかつき、吐き気や嘔吐を抑えます。
 イメドカプセル 80mg	1日1回 1回1カプセル ※治療翌日より2日間服用	吐き気止めです。


胃が痛くなることがあるがネキシウムカプセルが予防効果ある。また、夜寝つきが悪くなることもあるので心配しないことを説明する。

★胃薬

商品名	のみかた	効能
 ネキシウムカプセル 20mg	1日1回 朝食後 1回1錠 4日投与 ※翌日より4日間服用	胃酸の分泌を抑えます。デカドロンによる胃潰瘍予防

デカドロンによる胃潰瘍を予防するために服用します。


★便秘時

商品名	のみかた	効能
 マグミット 330mg錠	1日3回 毎食後 1回1錠	腸を柔らかくして、便秘を改善します。（便の状態によって、飲む量を調節してください。）

制吐剤などによる便秘が起こるので、マグミットは本日夕食後から開始し、適宜中止します。

★白血球（特に好中球）の数が減るために起こりやすくなる感染症対策


※37.5℃以上の発熱時、速やかに内服を開始して下さい。

商品名	のみかた	効能
 アペコックス錠 400mg	1日1回 1回1錠	熱の原因になっている細菌を殺す働きがあります。

3日間服用してそれでも37.5度以上の熱が続く場合は、主治医に連絡をとって指示に従ってください。（抗菌薬が効いていません）すぐに、熱が下がった場合でも、5日前飲みきってください。

抗菌剤とカロナールは同時に服用開始し、抗菌剤は解熱しても5日分飲み切る事、カロナールは6時間毎に服用し熱が下がったら服用中止することを説明します。


★解熱剤・鎮痛剤

商品名	のみかた	効能
 カロナール錠 200mg	1回2錠 6時間毎 37.5度以上の熱が出たとき	熱を下げます。体の痛みがあるときにもお飲みください。

カロナールは痛み止めとしても使えます。

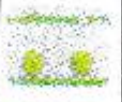
★感染症対策：うがい、手洗いをこまめに実施しましょう。

★化学療法剤（注射薬）による吐き気対策

商品名	のめかた	効能
 ロラゼパム 0.5mg錠	1回1錠 吐き気がある時 (6時間以上あけてお飲み下さい。)	不安や緊張から来る吐き気を抑えます。


吐き気止めは早めの服用を薦める。
ロラゼパムは眠気について注意する。

★便秘時

商品名	のめかた	効能
 ヨーデルS 糖衣錠80mg	便秘時 1回2錠	大腸を刺激して便を出しやすくします。

ヨーデルはマグミットを服用しても1日以上便が出ないとき(いざというとき)のみ服用する。


★下痢時

商品名	飲み方	効能
 ロペラミド カプセル1mg	1回1カプセル 下痢時 (6時間以上あけてお飲み下さい。)	下痢を改善します。

下痢になった場合、ロペラミドを2~4時間ごとに服用し、下痢が治まったらすぐに中止することを説明します。

* 下痢対策：水分補給をしっかりとしましょう。

★口内炎対策

商品名	飲み方	効能
 含嗽用 ハチアズレ顆粒	1日5回	うがいに用いる薬です。 口の中や、のどの炎症をおさえる作用があります。

含嗽用ハチアズレは水に希釈して、1日5回以上うがいます。

2) イブランスカプセル125mg、25mg



手術不能または再発乳癌の治療に用いられる。
成人は1回1カプセル(主成分として125mg)を1日1回食後に3週間連続で服用し、1週間休薬する。
内分泌療法剤との併用が必要。



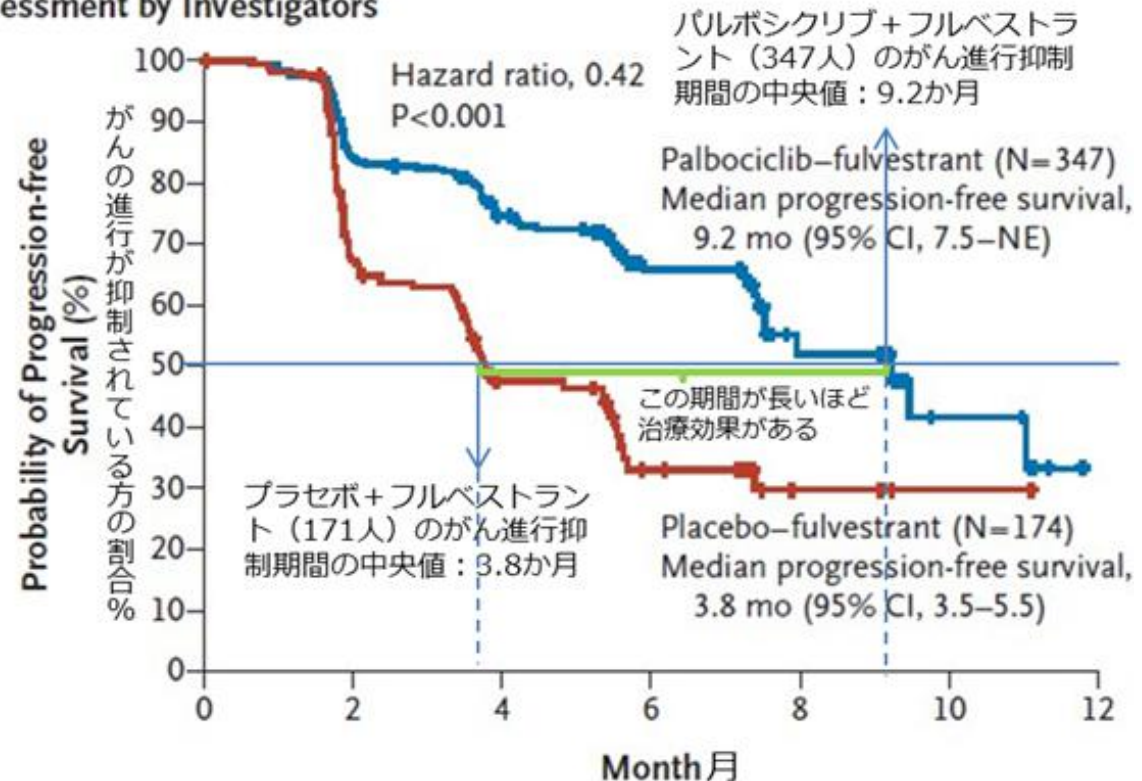
The NEW ENGLAND
JOURNAL of MEDICINE

Palbociclib in Hormone-Receptor-Positive Advanced Breast Cancer / Nicholas C. Turner et.al.
DOI: 10.1056/NEJMoa1505270

右の図は Kaplan-Meier 曲線といい、がんの臨床試験でよく用いられる図となります。縦はがんの進行を抑制されている方の割合となるため、上側を推移するほど効果が持続していることを意味します。青線が「フルベストラントとパルボシクリブ」、赤線が「プラセボとパルボシクリブ」となりますが、赤線は4か月ほどで50%の方にがん抑制効果がなくなっていますが、青線は9か月かかっています。よって、青線の方が効果があるといえます。

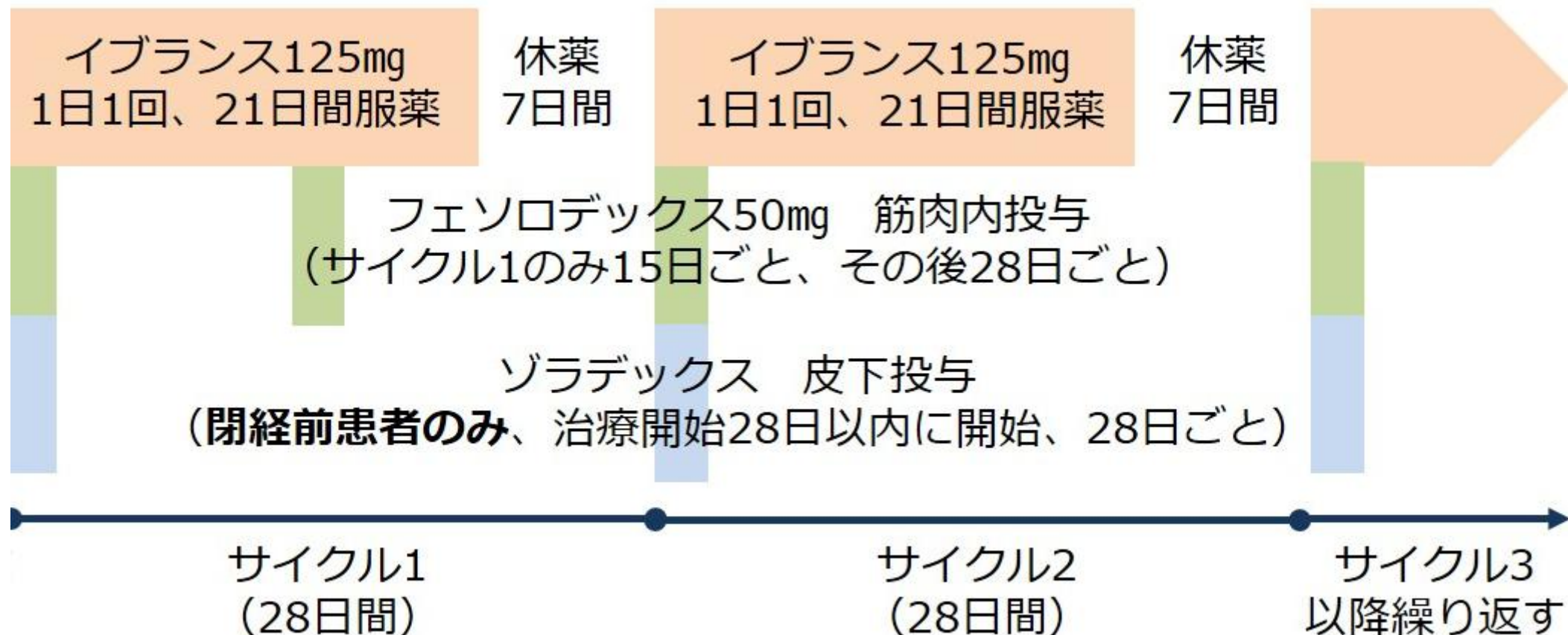
2015 ASCO Annual Meeting

A Assessment by Investigators



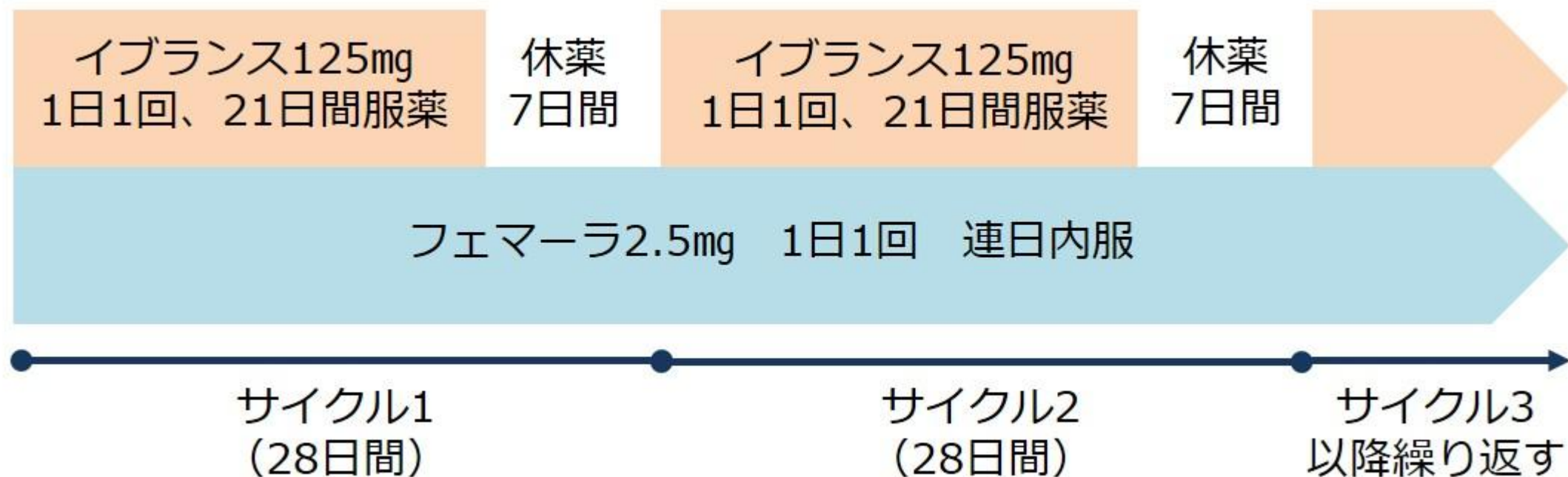
2) イブランスカプセル125mg、25mg

《注射ホルモン剤との併用の場合》



2) イブランスカプセル125mg、25mg

《内服ホルモン剤との併用の場合》



<イブランスカプセルによる副作用>

<骨髄抑制の症状が出た場合には、服用を中止してすぐに主治医に連絡するよう指導して下さい>

好中球減少(発熱)(全体:78.4%、日本人のみ:93.8%)⇒特に1コース目のday15ごろに多い。

血小板減少(出血・青あざ)(全体:14.6%、日本人のみ:34.4%)

貧血(全体:19.1%)

<その他の副作用について>

脱毛症(全体:31.5%)⇒すべてが抜けるわけではないが、意外に抜ける。

口内炎(全体:23.2%、日本人のみ:46.9%)⇒要注意!

感染症(尿路感染症、上気道感染、口腔ヘルペス、歯肉炎)(全体:19.1%、日本人のみ:31.3%)

疲労(全体:30.2%)

吐き気(全体:21.6%)⇒通常の制吐剤(ノバミン錠やプリンペラン錠など)の頓用

下痢(全体:14.9%)⇒G1G2がほとんど。水分摂取の励行、ロペラミド頓用。

B. 在宅医療への薬剤師介入の可能性



まず、国としての方針を見てみましょう

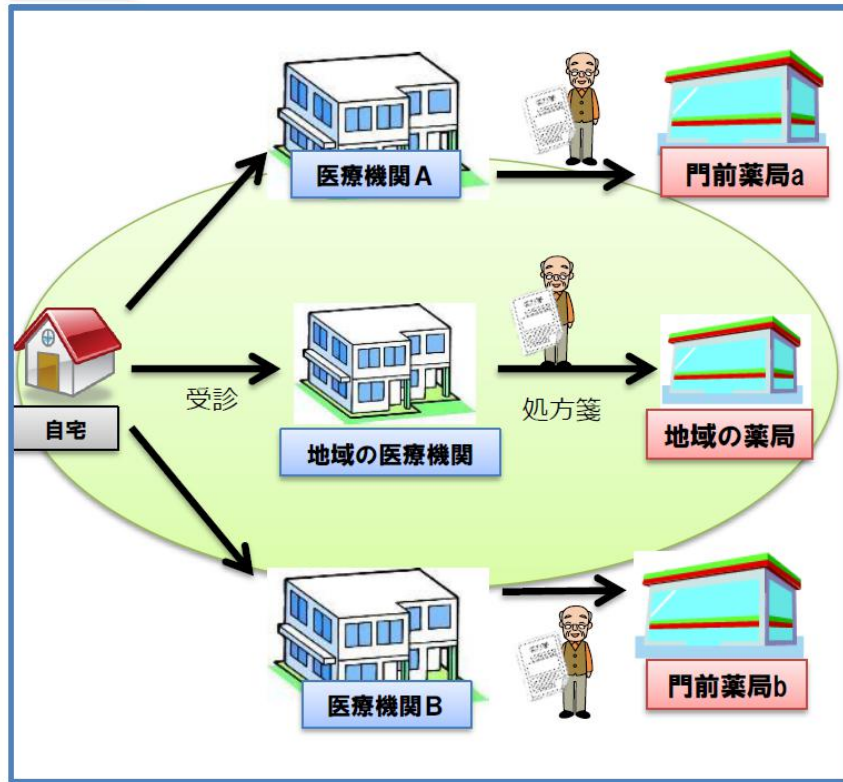


医薬分業に対する厚生労働省の基本的な考え方

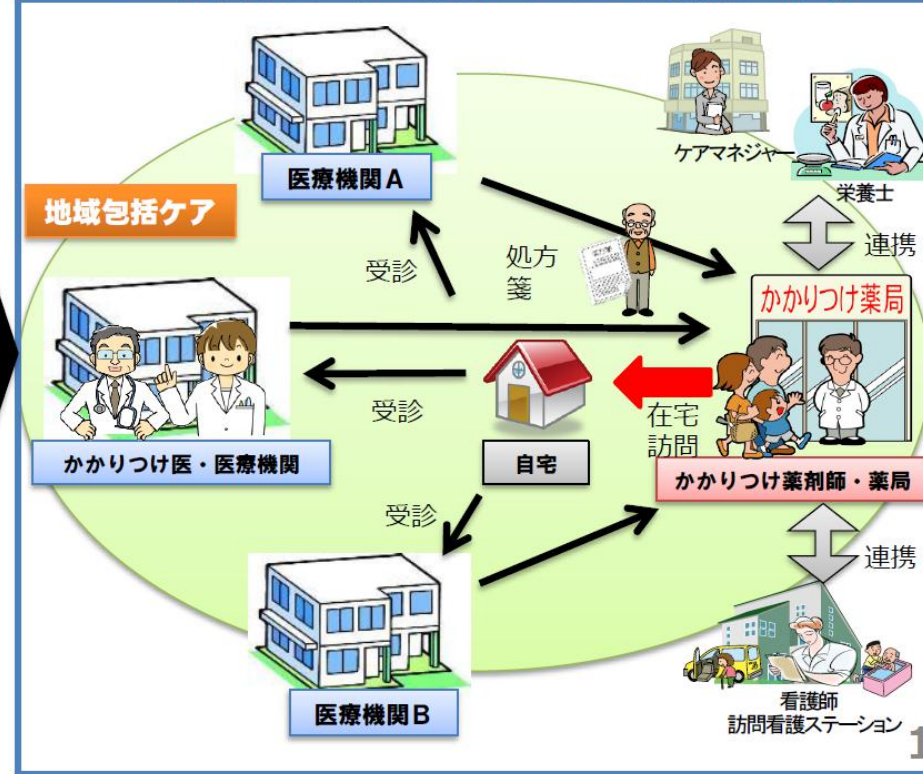
- 薬局の薬剤師が専門性を発揮して、ICTも活用し、患者の服薬情報の一元的・継続的な把握と薬学的管理・指導を実施。
- これにより、多剤・重複投薬の防止や残薬解消なども可能となり、**患者の薬物療法の安全性・有効性が向上**するほか、**医療費の適正化**にもつながる。

今後の薬局の在り方(イメージ)

現状 多くの患者が門前薬局で薬を受け取っている。



今後 患者はどの医療機関を受診しても、身近なところにあるかかりつけ薬局に行く。



薬局再編の全体像

～ 立地 から 機能へ～

現状

57,000薬局あるが、門前中心に医薬分業のメリットを実感しにくいとの声

様々な医療機関からの処方箋を受付

特定の診療所からの処方箋を受付

特定の病院からの処方箋を受付

面分業

門前薬局を含め、すべての薬局がかかりつけ薬局としての機能を持つことを目指す

診療所門前

中小病院門前

大病院門前

2025年まで

すべての薬局を「かかりつけ薬局」へ

かかりつけ薬局

- ・ ICTを活用し、服薬情報の一元的・継続的把握
- ・ 24時間対応・在宅対応
- ・ 医療機関をはじめとする関係機関との連携

+

- ・ 健康サポート機能
(地域住民による主体的な健康の維持・増進の支援)

※健康サポート薬局として活動
(日常生活圏域ごとに必要数確保)

- ・ 高度薬学管理機能
(抗がん剤等の薬学的管理)

2035年
まで

- 団塊の世代が要介護状態の方が多い85歳以上に到達
- 一般的な外来受診はかかりつけ医が基本となる

立地も地域へ

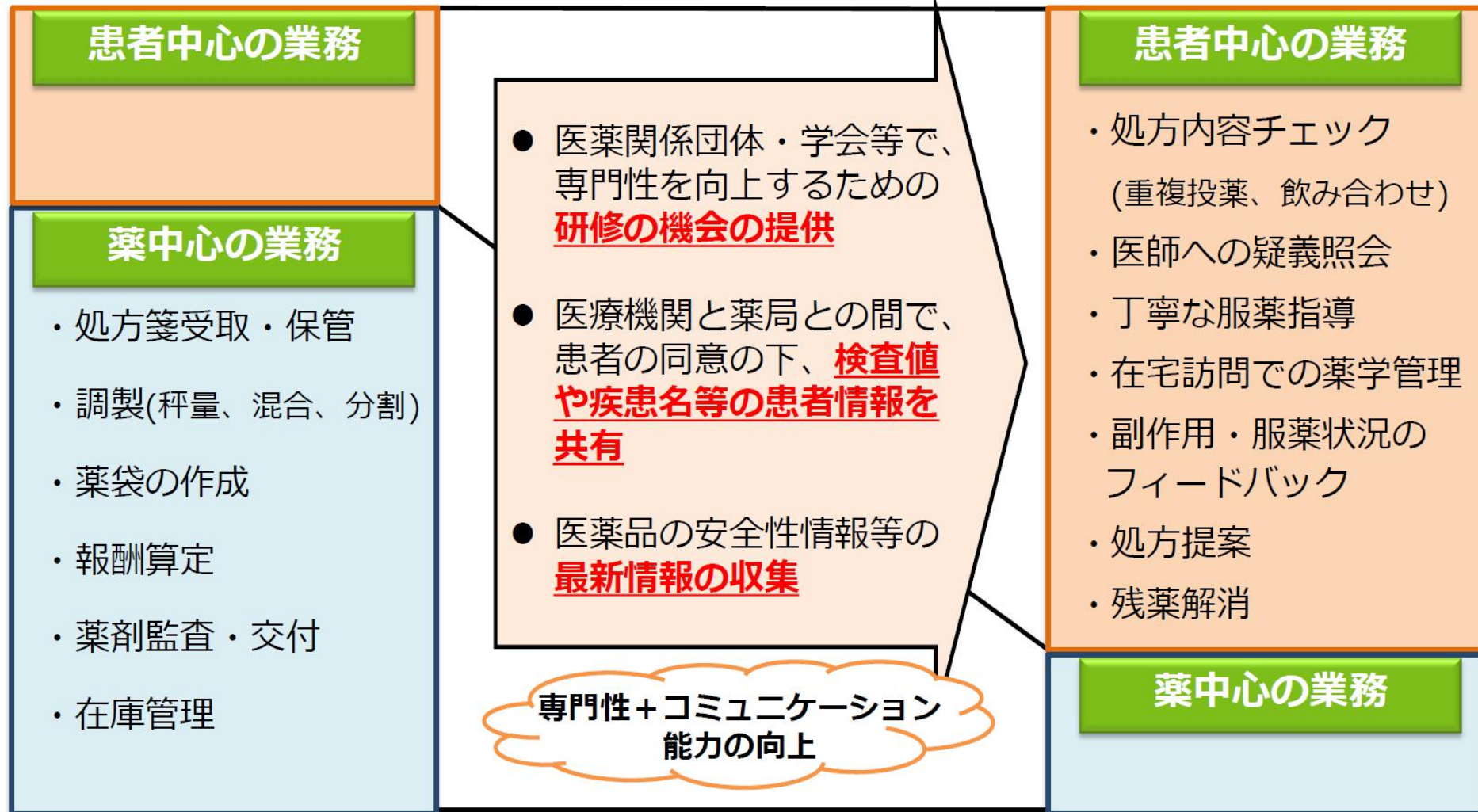
既に地域に立地

建替え時期等を契機に立地を地域へ移行

日常生活圏域でのかかりつけ機能の発揮

かかりつけ薬剤師としての役割の発揮に向けて

～対物業務中心から対人業務中心へ～



在宅医療への薬剤師介入

内服薬についての知識が豊富な保険薬局の薬剤師の方が活躍できるケースだと思います。

<役割>

①副作用の早期発見、適切な支持療法の服薬指導

(例:タルセバの皮膚障害、TS-1による下痢・悪心、ゼローダによる手足症候群)

②アドヒアランス確認

③服用継続しやすい剤型の提案 など



平成30年診療報酬改定及び今後の地域医療に向けて

(関連項目のみ一部抜粋)

- 残薬調整
- 分割調剤(処方箋様式の見直し?)
- ポリファーマシー対策(服用薬剤調整支援料)
- 服薬情報提供(服薬情報等提供料1及び2)
- 退院時共同指導の要件見直し(病院薬剤師、ICT活用)
- 地域支援体制加算

大阪国際がんセンターにおける薬-薬連携の取り組み

①院外処方箋発行時に直近の検査データを印字し交付

➡保険薬局の薬剤師が、調剤の際に検査結果に基づき適切な服薬指導を行うことにより、医薬品の適正使用、副作用の抑制・早期発見に繋がります。

②トレーシングレポートの運用 (病院HPに公開しました)

➡保険薬局からの貴重な患者情報を主治医に迅速に連絡することにより、処方への反映に活かされます。

③周辺地域を含む薬剤師会との合同研修会の実施

➡代表的なレジメンの説明、検査データの見方、副作用対策、服薬指導方法

★我々病院勤務の薬剤師からも情報提供などの連携をしていきます★

服薬情報等の提供のお願い

- 院外処方箋の「備考欄」に『裏面をご覧ください』と記載しています。

⇒裏面に「調剤時のお願い」「提供いただきたい服薬情報」

「実施していただきたい指導内容」等の依頼を記載しています。

（「医療機関からの依頼に基づく情報提供」）



病院依頼者へ電話（又はFax）回答していただくとともに、

薬局DI室に「トレーシングレポート」による報告をお願いします。

これまでの依頼例（外来看護師から）

- 患者持参のTS-1手帳に基づき指導し、その結果をお知らせください。
2週後に次回受診の際、その結果で処方が見直されます。
- ニトロペン舌下錠、初めてなので指導をお願いします。
独居のため、他の薬剤についても内服できているか確認をお願いします。
- フェントステープ初回。使用方法は指導しましたが副作用を含め再度指導をお願いします。
- ロキソプロフェン2錠（分2 朝・夕）。オキノーム内服もあり、頭呆感と眠気が強く、
ロキソプロフェンを1日2回に減量。処方箋交付時に説明していますが、再度説明をお願いします。
- 通過障害があり。錠剤は小さく粉砕を希望されています。（ムコソルバンL錠45mg）

Take Home Message

今回の講演をご参考にいただき、
保険薬局と病院の薬剤師同士での
情報交換のきっかけになれば良いと思います。

ご清聴ありがとうございました

